

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2024年 3月27日

事業所名 放課後等デイサービス あん泉教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		発達段階や活動内容に合わせて和室や2階プレイルーム(2部屋)を活用している	
	2	職員の配置数は適切である	100%			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%		二階への階段は急こう配なので、昇降には必ず職員配置している	室内の移動や階段等昇降については、職員が立ちあっている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		毎月定例会議を開催 毎日の打ち合わせ時に改善点の把握に努めている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		100%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		定期的なモニタリングの開催に努めている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		事業所独自のアセスメントシートを活用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		長期休暇に対応した課題やプログラムの立案に努めている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	90%	10%		口頭での検証、改善になっている場合もあるので記録の徹底を図る
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%				
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%				

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	90%	10%	学校発行の手紙を保護者より頂けるようお願いしている また、学校によっては事業所に配布していただける	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	90%	10%		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%		利用が決まった時点で、主に児童発達支援センターや相談支援員より情報提供してもらっている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	60%	40%	現在移行する利用児がないが、必要に応じて対応できる	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		地域ネットワーク会議に参画し、相互連携・相互研鑽に努めている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%		地域の児童館や公園は月に何回か利用させてもらっている	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%		地域ネットワーク会議が子ども部会となっている	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	80%	20%	個別対応しており、小集団ペアトレは行っていない	利用保護者にペアトレのニーズがないこともあるが必要であれば支援体制を整える
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	90%	10%	契約時に丁寧に説明することを心がけている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%		現在ニーズがないのが実情だが必要に応じて開催する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		苦情窓口の設置 対応研修の受講	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	90%	10%	防災訓練については定期的な発行をしている その他の情報等は必要に応じて発信している	
	35	個人情報に十分注意している	100%		個人情報は鍵付きロッカーにて保管している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	90%	10%	事業所理解、協力依頼の手紙を地域住民の方に配布 事業所見学会を開催したが、訪問者はなかった	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		定期的にマニュアルの確認と見直しを行っている	保護者へのマニュアル内容の周知が希薄なので次年度は情報の定期的な発信を企画する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		虐待防止委員会、身体拘束等適正化委員会設置	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	90%	10%		身体拘束を行う利用児はないが、必要となれば対応する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	90%	10%	契約時にアセスメントツールに基づいて保護者に確認している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			